midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

June 2014 No.374-375

６月号の１枚：森の音楽会を開催

［巻頭言］森～川(里・農地)～海　そして、森への循環

森・里川・海による水の循環がなかったら全ての生命体の連鎖が途切れる

太陽光熱で温められた水は気化し雲・雨となって地上に降り注ぐ。植物は根を通して水とミネラルを取り込み樹木の葉に至り、各種植生を育てる。葉の葉緑体は、太陽熱と葉緑素の力を借りて空中の二酸化炭素を樹木の形に固定化しつつ、酸素を送り出し有機物を生成する。同時に樹木は保湿・保温機能で各種生命体を育む。

森のミネラルを含む沢水は、川となって田畑の植物を潤しつつ里の全ての生命体を支え里のミネラルを加え海に流れ込む。更にこのような栄養素は、海の生命体を支える。太陽熱を受けた海陸の水も雲となって気流に乗って森に雨を降らす。森・里川・海による水の循環がなかったら全ての生命体の連鎖が途切れる（参照、森里海循環文明）。

便利な生活を求めて人間の「貪欲」が、森・川・海と言った自然をを破壊して自らの生命を日々、脅かしている。この時・今、東京ドームの広さに換算してみれば1時間当たり127個分もの森林が地球から消えて行っていると言う（森林・林業学習館 http://www.shinrin-ringyou.com/より）。

昨年は、猛夏と季節外れの台風・ハリケーンに悩まされた、今冬は、極寒が地球の各所を襲う一方、温暖化現象が高山氷河や北極海の氷を溶しつつある。森林破壊・減少による気温の調節能力が失われ、今年の夏は、更に高温に悩まされるとも冷夏になるとも言われている。5月には各地で真夏日となった。今の快適さを求める人間の貪欲は、私たちの子孫が灼熱と渇き、呼吸困難の地獄でもがき苦しみ、死に絶えていく姿が見えないのだろうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.06

6月 8日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
6月22日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

5月4日（第一日曜日）

緑が濃くなり、小原本陣の森に温かく心地よい風がそよそよと吹く中行われた五月の小原本陣の森での定例活動は、Forest Nova☆からは計十一名の参加者が集まりました。六名は小原本陣の森に、五名は小原地域の四阿近くの林に足を運び、各々の活動に取り組みました。

小原本陣の森では、まだ大雪の爪痕が道に多く残っており、道に掛かっている倒木の処理を行い、午前中だけの活動で計三本処理をしました。そのうち二本は根元から折れていましたが、折れてしまった木も径路の材料として使えるように玉切りを行いました。玉切りした木は階段状に設置し、枝打ちした枝や葉を敷き詰め歩きやすいように施したり、径路途中にある橋の補強に用いたりしました。

小原の丸太橋の奥の整備された地点の木々は、なぜか倒木が見当たりませんでした。逆に整備されていない川の向こう側の木々は倒れているもの、折れているもの、曲がっているものが多く…。整備した地点は被害が少ないのは嬉しかった反面、整備されてない地点の被害が多かったのは残念でした。自然の力は人間には到底及ばないという自然の恐ろしさを感じながら、僕たちの活動によって自然を、森をしっかりと整備していきたいと改めて思いました。

山田　和彦（Forest Nova）

私たちは、四阿周りの景観伐採の続きを行いました。この日は、前回、作業途中で終えることができなかった間伐と、伐採した枝の処理をしましたが、ノコギリを一引きする度に、枝を一束運ぶ度に、心に森の感覚が染み込んでくるようです。この木を植えたときはどんな景観だったんだろうか、この土地に足を運んだ人は何を感じるのだろうか……様々な思いと情景が胸の奥で交差します。永井忠男様から許可をいただき、この土地に立ち入らせていただいてから、既に半年以上が経ちます。何度も何度も足を運んでいるうちに、ある種の愛情が湧いてくるものですね。

普段の人工林内の活動では、木を伐り、加工し、それを搬出していくことによって、森林の循環を促すことが命題となりますが、ここ四阿での活動は訪れる人が見る風景をイメージしていくという一味変わった活動目的だと感じています。これは、私たちが目指す「森と人との共助共生社会」には必ず必要な要素です。

一つ一つの経験と出会いを大切にし、常に視界に森を捉え、これからも活動を続けていきたいと思います。

淺野　雅樹（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

5月18日（第三日曜日）

今回の参加人数は何と１１０名。もしかしたら過去最高かもしれない。森林総研、神奈川県自然環境保全課、鎌倉・明月荘、東京農大・吉野先生（林業サプライチェーン研究が専門）など参加団体も多く、そのぶん活動内容も盛り沢山。このレポートを書くのもだんだん大変になってきた。

さて午前中、石村さんが明月荘の方々を森に案内している間、私は東京学芸大の学生さん達とちょっとワイルドな山歩きを敢行。踏み跡程度の急な斜面をたどって山頂まで。樋口、原子、神村の三先生の引率があるため少し緊張気味。途中、森林生態系や森の働きなどについてお話したつもりだったが、果たしてしっかりできたかどうか。大菩薩連嶺、南アルプスを望む山頂での記念写真は送付済み。

昼食時は本日のハイライトである山の音楽会。滝澤会員のご子息のお嫁さんとその息子さん、ご友人との三者で奏でられた演奏が森に響く。「山の音楽家」「オブラディ・オブラダ」「風の通り道」「夏の思い出」…。チェロ、フルート、クラリネットの音色に誘われてか、普段はなかなか姿を見せることのないガビチョウ夫妻（？）もやってくる。石村さんは感動の涙をこらえるのに大

変だったとか。（写真、右下）

午後、身体が自由になったので各班の活動を取材。北都留森林組合の重機が積み重なった材を運んでいる（写真、左）。その近くでは仮置き場建設に使う柱材に墨入れを施し、中心を決める作業が進行中。麻布大の原田先生や生命の森宣言の佐藤さん、フォレストノバのメンバー数名の眼差しも真剣そのものだ。在来工法をぜひ多くの方々に体験してもらいたいとは体験学校長・斎藤さんの弁。

フォレストノバには前述の原田先生のゼミ学生、ノバＯＢの前川さん、東農大の学生も加わっていつになく賑やかだ。森林散策、材降ろし（写真、右上）、自然乾燥のための材の井桁組みに取り組んだ模様。

高井戸中の半数はなみすけの森付近の間伐、掛かり木処理を森林整備班とともに行っている。他の半数は学芸大生と一緒に仲良くボサ刈り。アオキの除伐やつる切りが主な仕事である。学芸大諸先生の指導のもと、鬱蒼としていた森が見る間にきれいになっていく。（写真、右中）きれいになるのはよいのだが、悪い森の見本がなくなってしまう。体験学校での解説を考えると嬉しいような、困ったような、何だか複雑な心境…。

今日はかつてない大勢の参加者があったため、事故や怪我が懸念されたが、各班それぞれ何事もなく整然と事を進めることができた。これは見事のひとことに尽きるだろう。石村さん、ここでもまた感動を抑えきれなかったようである。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告1]
ForestNova新入生より

私は現在の自然環境、またその問題に対してどんな団体や人々が解決に向けて動いているのかを知りたいと思っています。将来社会に出たときに、環境問題解決に貢献するには無くてはならないと思うからです。今はまだ無知に等しい自分ですが、これから環境問題のエキスパートになるべく努力します。

安部　沙也伽
（麻布大学、生命・環境科学部）

私は高校時代に環境問題に取組んでいましたが、現地へ行く機会はありませんでした。そこでForestNova☆に入ることにしました。私は食品生命科学科に所属しているので、知識などに少し欠けたりするかもしれません。しかし、独学や先輩方から教えてもらったりとしっかりと勉強していきますのでよろしくお願いします。

櫻井　友樹
（麻布大学、生命・環境科学部）

私は単純に森や森に棲む動物が好きでForestNova☆に入ったのですが、活動の中で日本の森について知っていくうちに、守るために何かしたいと思うようになりました。なので、森の整備をするだけでなく、どのようなことが森のためになるか、活動を広げるためには何をすべきかまで考えながら活動したいです。

田口　真鈴
（麻布大学、生命・環境科学部）

私は元々自然が好きで大学に進学したら自然に関わりたいと思っていたので、ForestNova☆の活動にはとても興味を惹かれました。まだ森に関してはわからないことだらけですが、これから活動をしていく中で色々な知識を得ていきたいと思って

います。早く力になれるように頑張りますので、よろしくお願いします。

中嶋　竜太
（麻布大学、生命・環境科学部）

私は昔から環境問題や、植林活動のボランティアなどに興味を持っていました。そこで、アクティブでとてもまじめに活動している団体が良いと思いForest Nova☆に入りました。しかし、私は森に関しての知識はほとんどありません。これから先輩たちと活動を続けていくなかで、色々なものに触れ、考え、たくさん学んでいきたいと思います。そして、環境・動物・人に優しい人間を目指します。

西田　朋世
（麻布大学、獣医学部）

私が育ってきた環境にはいつも自然がありました。自然は、豊かな感受性や創造力と言った、座学では得られない大切な事を学ぶのには、絶好のフィールドであると思います。私は自然が大好きで、これからも学んでいきたいので、ForestNova☆に入ることを決意しました。まだまだ未熟者ではございますが、よろしくお願い致します。

山田　幸輝
（麻布大学、生命・環境科学部）

[報告2]
森づくり初参加感想

今月号では初めて森林整備に参加した中学1年生の感想をご紹介します。

嵐山に初めて行って学んだ事があります。それは森がキレイになったことです。まず森で感じたことは間伐を行っていた森は光が差し込んでいてとてもきれいなのにまだ間伐をしていないほうは光がほとんど差し込んでいなくて下の方はまるでジャングルのようでした。午後、私たちがそのジャングルのようなところへ足を踏み入れたとたん、とげのようなものがささりビックリしました。また、みんなで大きな落ちている木の枝を切り取って山に半分うまっている木を運んで片付けたこともとても心に残りました。仕事が終わっとき、ジャングルのようだったところを振り返ると光が最初よりたくさん入ってきたのをみてとても感動しました。これからもNPO法人の方々と一緒に森をキレイにしていきたいです。（1年生女子）

僕にとって小さな事の1つ1つが新鮮な体験であり、とても胸にひびきました。なかでも、印象に残ったのは間伐です。僕は運良く、追い口の最後を担当しました。そして、最後に切り倒した時の「ギギィーっ」というとても大きな音はまだ心にひびいています。しかし、間伐の難しさも感じました。切った木が電線に引っかかりそうになったのです。その木は先輩と先生に処理してもらいました。自然の中で油断をしてはいけないと強く思いました。これからは森の自然を身近に感じ、注意をはらい、楽しく活動していきたいです。（1年生男子）

初めての森でとてもいいところだと思いました。なぜなら空気がおいしく、景色が良かったからです。また、活動では初めて木を切りました。切ったときの達成感と音は最高でした。最初は暗い森と聞いていたのですが思ったよりもきれいでした。何年も作業すればこのようになると思いました。午前中は木を切る作業をし、午後は草刈りをしました。草刈りは広い場所で作業をしたので大変でしたが、終わったときにはとてもすっきりしました。ぼくは今回の作業でこれからも地球環境部の部員として、森をきれいにし、守っていこうと思いました。（1年生男子）

＊下の写真は全て中学生が自分たちで撮影したものです。

[報告3]
参加した東京学芸大大学生の感想より

色々なことを教えていただけたのでとてもためになりました。自分が小学校の先生になったとき、校外学習などで児童に色々教えられるよう、これからも知識をつけていきたいと思いました。草刈りは初めてでしたが、とても貴重な経験になりました。どの（どこまで）草や木を取り除いた方がいいのか基準が分からなくて判断が難しかったですが、楽しかったです。

「山歩き」といったので、どのようなものかと考えていたが、予想以上の角度で驚きました。途中で何度かすべりそうになりました。普段は整備されたところしか歩かないので、今回のように歩くことをとても楽しく感じました。特に植生の分布や鳥の鳴き声を楽しむことができました。草刈りは最初どのくらいの木を切れば良いのかわかりませんでしたが作業を続ける中でどの木を切るのが最も適切か分かるようになりました。また、他の植物のためとはいえ、やはり植物を切ることに少し抵抗がありました。

ワイルドなコースが多く、キツいところもありましたが、なかなか経験できないコースだったので、できてよかったです。頂上に着いたときの達成感は忘れられません。
午後の草刈りでは最初は草や小さな木を切ってしまうことに抵抗があったのですが、余計なものを切ることで、日光が入りやすく逆に森が育つことがわかり、どんどん作業を進めることができました。途中、相模のスタッフの方にどのような植物が特にじゃまなのかを聞いた際、たくさんの種類の植物を見ただけで説明されていた姿を見てすごいなと思いました。私もまだまだ勉強しなければならないなと改めて実感しました。

いつも遠めから見ている一人では立ち入ることが出来そうにない森に入ることができて新鮮な体験ができた。講義で学んできた自然を保護するためには自然に何も手を加えなくて良いわけではないという事を体験することができた。森の日照の関係性を実際に肌で感じることが出来た。

想像以上に険しい山道をガイド付で案内して頂けて、なかなかできない経験ができました。思っていたより険しく、持ち物などの準備が不十分だったと感じました。中学生と一緒に積極的に作業に取り組めました。先生方はもちろん、その他の団体の方々から学ぶことは多く、大規模な行事だったからこその経験ができました。

[報告4]
上智大学ASF2014へ参加、写真でご紹介

5月25日に行われた上智大学オールソフィアンズフェスティバルに高井戸中学地球環境部が積み木で参加しました。今回はアンコールワットに加え、同大の聖堂のひとつであるクルトゥルハイムを制作しました。写真でご紹介します。

[事務局からの
お知らせ、お願い]

第12期 通常総会のお知らせ

日時：
6月15日（第三日曜日）、16時～
＊通常の定例活動後に行います。

場所：
相模湖交流センター２Ｆ

備考：
前期、これから15年活動目標を以下のように定めました。

１.若者の森つくり：後継者つくり
２.森林業の復権：サプライチェーン構築

真剣な意見交換をお願いします。

＊会員の方には出席について郵送にてお知らせしています。出席できない方は、同封の葉書の委任状を必ず返信ください。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版